

=====
道総研二期目のスタートに当たって
=====

今から60年前、昭和30年9月に、北総研の前身である寒地建築研究所が設立されました。本道では昭和27年から全国に先駆けて総合開発が進められ、住宅対策は産業振興の基盤として最重視され、全道70万の住宅の防寒化を目指す北海道防寒住宅建設等促進法が制定された時代です。

当時の田中敏文北海道知事は、本州そのままの移入であった住宅を、技術面だけではなく生活面も含め総合的に寒地建築とするため、この研究所を設立しました。知事は「建築経済、熱計画、建築計画、建築衛生、建築構造等の各種の立場から、また道内の資源をいかに有効に利用するかを総合的に研究し、その結果を行政に移して、科学的な行政の基礎をつくろうとするものである。このことにより、寒地建築の普及も長足の発展を遂げるであろう。」と記しています。（「北海道の住宅対策について知事としての私の考えかた」〔住宅1955年7月号（社）日本住宅協会発行〕より引用）

爾来、住宅の性能や省エネルギーなど技術開発に取り組み、今日では本道の住まいの技術水準や快適性は日本のトップランナーとして成長しました。

平成22年に道立の22の研究機関を統合して、北海道立総合研究機構（道総研）が創設され、北総研もその一員となりました。大きな変化として、6研究本部が、それぞれの専門性を持ち寄り、力を結集して、森林循環や食産業、エネルギーといった本道の中核的な課題に総合力を発揮しながら取り組んでいくことが可能となりました。

この4月から道総研の二期目がスタートしました。人口が減少するというかつて経験したことがない局面を迎え、地域が持続しうる環境を整え、資源やエネルギーの循環的利用により新たな北海道価値に繋げていくことが強く求められるなど、道総研の真価が問われる5年間になります。

このような課題に、北総研が総力を挙げて取り組んでいくため、地域、防災、環境、技術の4分野それぞれの研究方向を明らかにしながら、防災分野の強化や大幅な組織名称の改正を行いました。（詳しくは「4月1日からの新体制について」を参照してください）

これまで住まいやまちづくりで培った技術や成果を発展させ、「都市・居住の計画から地域マネジメントへ」、「災害対策・避難対策から防災まちづくりへ」、「住宅・建築の省エネから地域・産業施設のエネルギーマネジメントへ」

「建築材料・構法から資源循環型の地域生産システムへ」と研究領域を広げながら、時代の要請に的確に応えていきたいと考えています。

これからも、道民の暮らしを豊かにする研究姿勢を大切に、職員一人一人が次の時代を切り拓く志を持って研究に邁進して参りますので、今後とも皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

建築研究本部長兼
北方建築総合研究所長 石塚 弘

=====
北総研からのお知らせ
=====

=====

■ 4月1日からの新体制について

北方建築総合研究所では、次のとおり研究部、研究グループの改称等を行いました。

○居住科学部 → 地域研究部

- ・居住科学グループ → 居住・防災グループ
- ・防災担当（主任研究員）の配置

○環境科学部 → 環境研究部

- ・構法材料グループ → 建築技術グループ
- ※環境グループは、変更ありません。

【新たな北方建築総合研究所の体制】

所長	副所長	地域研究部長	居住・防災G研究主幹	主査（住計画）
			居住・防災G主任研究員	主査（地域計画） 主査（地域防災）
		環境研究部長	環境G研究主幹	主査（建築環境） 主査（都市環境）
			建築技術G研究主幹	主査（建築システム） 主査（建築保全）
		構造計算適合性判定センター長	構造判定部長	主査（判定第一） 主査（判定第二）

職員一同新たな体制でより一層研究に取り組んでまいりますので、今後とも、よろしく願いいたします。

（企画課 酒井）

■北総研ホームページアドレスが変更になります

平成27年4月1日より、北海道立総合研究機構のホームページが一新されることに伴い、北方建築総合研究所のホームページURLが変更となりましたのでお知らせします。

お気に入り登録をされている方は、お手数ですがBookmarkの変更をお願いいたします。

変更後のURL

北方建築総合研究所 <http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/>

構造計算適合性判定センター

<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/organization/nrbc.html>

ご不便をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願いたします。

(企画課 酒井)

■平成27年度研究ニーズ調査へのご協力をお願いします

道総研では、道民、道内企業、自治体等の皆様から、研究要望を幅広く把握するため、研究ニーズ調査を実施しております。

建築、住宅、まちづくり等に関する研究要望がございましたら、下記によりまして、ご遠慮なく提出いただければ幸いです。

提出様式につきましては、下記道総研ホームページからダウンロードをお願いいたします。なお、お寄せいただいた要望につきましては、内容を検討の上、要望者各位に検討結果をお知らせいたします。

どうぞご協力のほどよろしくお願いたします。

■受付期間 平成27年5月8日(金)まで

■送付方法 FAX、e-mail、郵送、持参

■送付先

F A X 0166-66-4215

E-mail nrb@hro.or.jp

(お手数ですが、@を半角に直して送信してください)

郵 送 〒078-8801 旭川市緑が丘東1条3丁目1-20

■概要、様式等

道総研HPをご参照ください。

<http://www.hro.or.jp/research/develop/needs.html>

(企画課 清水)

=====
イベントのお知らせ
=====

■【平成27年北方建築総合研究所調査研究発表会を開催します。】

平成26年度に終了した研究課題等の調査研究発表会を以下の日程及び場所で開催します。

開催プログラム等詳細については、決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。

日 時：平成27年6月23日(火)

会 場：北海道立道民活動センター(かでの2.7) かでのホール

札幌市中央区北2条西7丁目

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(企画課 酒井)

=====
ひとことエッセイ「手すり」
=====

父が亡くなってもうすぐ4年になる。最後は施設や病院に入ってもらったが、それ以前の数年は自宅介護の時期があり、母にはずいぶん苦勞をかけている。支えてやるとまだなんとか歩けたので、手すりを取り付けて負担軽減を図ろうとしたが、使えるのが片手だったので、支えながら家中を歩いてもらい、手の着き方や高さを見極めて、いろいろな形状や長さの手すりを自作も含めて設置していった。歩くのも困難な時期になると、家中移動できる幅の狭い車椅子を探したり、段差解消工事を自力施工したりと、不謹慎だがそれなりに楽しみながら介護を手伝っていた。手すりなどは現在、母が重宝がっている。

さて、私も結構トシをとり、そう遠くない将来、同じような状況にならないとも限らないが、確かなのは私の息子が自ら手すりを取り付けてくれることはいだろうということである。そこで、大工道具が持てるうちに、弱った体を支えてくれる「手がかり」を家の要所に設けようと思ったのだが、ただの「手すり」を今から取り付けるのも邪魔くさいので、天板が手すりにもなる奥行き10cmの「壁付け家具」を数カ所作ることにした。この程度の奥行きでも、常備薬や血圧計を入れる引き出しがあり、健康雑誌を収めるマガジンラックも付いている（機能が高齢者向きで・・・）。現在、あと1カ所でトイレまでのルートが開拓されるところまで来ている。

当然、今はだれも手すりとしては使わず、いつの間にか「手すり」天板上に小物や写真が飾られたりしている。そのうちきっと役に立つから。いや、役に立たない方がいいのか・・・。

(企画調整部 十河)

=====
研究紹介「地震火災を想定した都市防火性能評価に関する研究」
=====

阪神淡路大震災の火災のように、地震によって建物が全半壊し、延焼が拡大することを地震火災と言います。我が国の都市防火対策として都市計画法に基づく防火地域・準防火地域の指定が位置づけられていますが、必ずしもこのような地震火災を想定していないのが現状です。

北総研においても既に一般的な火災を想定した都市防災性能評価手法を開発していましたが、これに加え、地震火災を想定した手法が必要となります。本研究では苫小牧市からの委託により、地震火災を想定した都市防火性能評価手法

を開発し、以下の内容について分析しました。

・平常時の都市防火性能の評価

苫小牧市のGISデータを活用し、GIS上での計測により苫小牧市の平常時の都市防火性能指標の評価並びに空き宅地に現時点と同程度の密度で建物が建った場合を想定した地区内の最大値の評価

・地震火災を想定した都市防火性能の評価

地震が発生し防火木造の建物が半壊した場合に、防火性能が裸木造なみに低下すると想定して都市防火性能を予測しました。

・防火地域・準防火地域の効果分析

防火地域・準防火地域の建築制限に従い、現況の都市計画基礎調査の建物と同一用途・同一規模と仮定し建物構造を変更して都市防火性能を予測し、平常時と比較することで防火地域・準防火地域の効果を定量的に分析しました。

・延焼拡大地域の抽出及び延焼拡大要因の分析

以上の解析結果を用い延焼が拡大する地区を抽出し、地区の延焼が拡大する要因の分析を行いました。

この研究成果を活用し、今後は苫小牧市と北総研が協力し、防火地域・準防火地域指定方針を作成することとなります。北総研では、北海道内の自治体から研究を積極的に受託しておりますので、ご要望などがありましたら、お気軽にお問い合わせください。

(居住・防災G 戸松)

=====
最近の研究所の動き
=====

■人事情報

◆3月31日付け退職

神田 文洋 (H26年度総務部総務課)

中村 拓郎 (H26年度環境科学部構法材料G)

◆4月1日付け転入

金子 正昭 (総務部総務課)

◆4月1日付け新規採用

岡村 篤 (地域研究部居住・防災G)

牛島 健 (地域研究部居住・防災G)

齋藤 茂樹 (環境研究部環境G)

◆4月1日付け研修受入

佐川 一郎 (地域研究部居住・防災G)

◆ 4月1日付け所内の動き

渡邊 和之（構造計算適合性判定センター構造判定部構造判定G主任研究員
→ 地域研究部居住・防災G主任研究員）

■新しいスタッフから一言

4月1日付で地域研究部居住・防災グループに配属となりました、岡村篤です。学生時代は、岡山大学大学院で「生活道路における交通安全と防犯の安心・不安感」について研究を行っていました。

私はこれまで北海道とはあまり繋がりがありませんでしたが、それでも道内のまちづくり活動に携わらせて頂けることを嬉しく思います。

まだまだ分からないことが多いですが、早く北海道の気候や仕事に慣れるよう努力して参りますので、よろしくお願いいたします。

（居住・防災G 岡村）

4月1日付けで地域研究部、居住・防災グループに配属となりました、牛島健と申します。前職では、北大の特任助教としてインドネシアやブルキナファソ(西アフリカ)の水と衛生の問題について、フィールドワークをベースとした研究をしていました。

もともと専門は建築ではないため、目下わからないことだらけですが、ビシビシご指導をいただければ幸いです。その上で、これまでの経験をうまく生かした貢献ができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（居住・防災G 牛島）

4月より環境研究部環境グループに採用された齋藤茂樹と申します。

前職では、住宅市場に関する統計調査や、新しい省エネ基準の主に運用に係る調査業務などを行ってまいりました。

この度、念願の研究職に就くことができ、純粋に嬉しい気持ちと同時に身が引き締まる思いです。

まだまだ仕事でお役に立てることは少ないと思いますが、一日も早く皆様のお力になれるよう努力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（環境G 齋藤）

4月1日付けで、旭川市都市建築部建築指導課から地域研究部居住・防災グループに配属となりました、研修員 佐川一郎と申します。

前職では、建築の窓口業務など浅く全般を行っておりました。専門で研究・調査など不慣れでわからないことばかりですが、頑張りますので、皆様ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

また、旭川市職員との交流の窓口になりたいと思っておりますので、交流会（

(構造判定G 本間)

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：(地独) 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所